

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/08/20

- 参加プログラム: AEARU 2018 Student Summer Camp
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-AUA-AEARU-summer.html>
- 派遣先大学: 中国科学技術大学
- プログラム期間: 2018/08/12 ~ 2018/08/19
- 東京大学での所属学部・研究科等: 医学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 3

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
医学部医学科の授業内容の特色上、長期留学は非現実的であり、夏休みも短いためこの時期のプログラムにしか参加できなかったから。
■参加を決めるまでの経緯:
中国に行ってみたく思っていたことと、短い夏休みの間でも参加できるプログラムである、ということが応募の決め手になった。また、研究にも興味があったので、中国の研究機関はどんなものなのか見てみたいという思いもあった。いけるプログラムの選択肢が少なかったので特に迷わなかった。

プログラムについて

■概要:
大学の研究室や、大学での研究を利用した企業の見学、中国文化体験、参加者との交流を深める遊び、などが主なものであった。あまり堅苦しいものではなく、とにかく楽しく過ごすというのがテーマにあったようだった。ただ、やはり周りに中国人が多かったので、中国文化にはたっぷり触れることができた。最後の二日間で黄山の方に遠足に出かけた。都市部ではない中国を見ることができたのが印象的だった。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
スポーツ
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
アーチェリー(プログラムのスケジュールに含まれていた)
■週末の過ごし方:
特になし(プログラムでスケジュールが指定されていた)

派遣先大学の環境について

■設備:
Wi-Fi は大学のものがあつた。職員用の食堂しか利用しなかつたが、食堂は充実していた。その他の施設は特に利用しなかつたが、図書館などはあつた。
■サポート体制:
特になし

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮, ホテル
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
受け入れ先大学によって指定されていた。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
日本と同じか少し暑いくらい。交通機関、食事については、全て受け入れ先の大学から提供されていたので実際の様子はわからない。提供されたものは日本と同じようなレベルだった。
■お金の管理方法、現地の通貨事情:
現金を多めに持って行ったが結局使わなかった。(受け入れ先大学が食事も交通も提供してくれるため) 中国ではビザやマスターカードなどのクレジットカードがほぼ使えないので注意したほうがいい。(銀聯カードは使える)
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
貴重品はスーツケースにしまって鍵をかけて管理するようにした。大学内からあまり出なかったのが治安については分からなかったが、あまり悪いという印象は受けなかった。
■自由時間に利用した交通手段:
利用していない。
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi、レンタルしたルーター、VPN

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
UTAS 上で志望理由などを記入する必要があった。TOEFL などのスコアを記入する欄もあったが必須ではなかった。また、所属部局の担当者のサインが必要だったため、教務課にプログラム内容を伝えてサインをお願いした。教務課などは開いている時間が短いため、時間に余裕をもって準備することが必要。
■ビザの手続き:
特になし
■医療関係の準備:
常備薬と胃腸の薬、風邪薬を持参した。飲み慣れている薬をもって行くのが良い。
■保険関係の準備:
学校指定のものに加入した。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
教務課にサインをもらう必要があったが、夏休み期間中のプログラムであったため特に他の手続きは必要なかった。
■語学関係の準備:
TOEFL99 点ほどのレベルはあった。中国でのプログラムだったので特に準備はしなかった。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	90,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	15,500 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	10,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	0 円
交通費	0 円
娯楽費	5,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給しなかった。	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
台湾、香港、中国、そして日本の他大学に友達ができ大きかった。まさに‘浴びるように’中国語にも触れ、中華料理を毎日食べ、中国文化をよく知ることができ、とても興味深かった。また、日本の大学と中国の大学の研究の様子も個人的に比べることができ、それぞれの国ではの良いところ、悪いところを知ることができた。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
文化の違いを感じた一方、医療は万国共通なので、将来的には外国でも働いてみたいと思うようになった。
■進路・就職先(就職希望先):
研究職、専門職(法曹・医師・会計士等)、公的機関、医師、厚生労働省医系技官
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
行かないで後悔するよりは行って後悔してほしい。学習面でも学ぶことはもちろんあるが、実際に外国にいて外国人と交流する、ということだけでかなりの収穫になる。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
スカイプ、中国でも使えたので。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/09/10

- 参加プログラム: AEARU 2018 Student Summer Camp
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-AUA-AEARU-summer.html>
- 派遣先大学: 中国科学技術大学
- プログラム期間: 2018/08/12 ~ 2018/08/19
- 東京大学での所属学部・研究科等: 医学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 4

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
夏期休暇中で授業がなく、試験の直前でもなかったから。
■参加を決めるまでの経緯:
Go Global の SNS でお知らせが流れてきた頃、ちょうど中国に実際に行ってみて中国についてもっと知りたいと思っていて、現地の学生とも交流できるいい機会だと思ったため申し込みました。

プログラムについて

■概要:
午前中講義、午後文化体験の日が多く、学生同士仲良くなれて修学旅行のような楽しい雰囲気でも過ごすことができました。最後の二日間は黄山という観光地に行きました。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
スポーツ、文化活動
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
アーチェリー、中国茶体験
■週末の過ごし方:
1 週間のプログラムですべての日にスケジュールがありました。

派遣先大学の環境について

■設備:
1 週間だったためわかりません。
■サポート体制:
1 週間しかいなかったため特に問題なども起きませんでしたが、全員にこのプログラムを楽しんで多くの経験をしてもらおうとくださっているのを感じました。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
大学のゲストハウス
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
大学のゲストハウスの部屋を手配してくださっていました。2 人部屋で、普通のホテルのような部屋でした。タオルも毎日交換されていて普通のホテルのようでした。

<p>■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：</p> <p>通常ですと暑い地域のようなのですが、今回はそれほど暑くはなかったです。大学周辺は治安が良く、交通機関はバスやタクシーを手配してくださっているので、特に気にすることはありませんでした。食事も全食出していただけて、美味しいので、とてもありがたかったです。</p>
<p>■ お金の管理方法、現地の通貨事情：</p> <p>銀聯カードをギリギリに作ったのですが間に合わず、結局現金を持ち歩いていましたが、現地の人たちはほぼ電子マネー（WeChat Pay、アリペイなど）でした。入れておくと便利だとは思いますが。</p>
<p>■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：</p> <p>自分で食べたいものを取れる形式が多かったなので、体調や気分に合わせて食事の量や種類を調整することができました。</p>
<p>■ 自由時間に利用した交通手段：</p> <p>利用していない。</p>
<p>■ プログラム期間中に利用したネット環境：</p> <p>キャンパス Wifi、レンタルしたルーター</p>

参加前の準備・手続きについて

<p>■ プログラムへの参加手続き：</p> <p>utas 上で申し込みをしましたが、事前に記入した資料に指導教員に署名をいただきスキャンして提出する必要がありました。</p>
<p>■ ビザの手続き：</p> <p>ビザは不要でした。</p>
<p>■ 医療関係の準備：</p> <p>食事は美味しいですが、脂っこいものが多いので、お腹の調子を崩しやすい人は薬など必要かもしれません。</p>
<p>■ 保険関係の準備：</p> <p>大学から指定された海外旅行保険に加入しました。</p>
<p>■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：</p> <p>海外渡航届の提出がありました。</p>
<p>■ 語学関係の準備：</p> <p>英語は日常会話程度ができれば、何とかできますが、見学に行く施設での理解度を上げるために、自分の専門でない分野の知識と英単語を入れておくとよいでしょう。中国語話者が多かったので、事前に中国語を勉強してから行って、貴重な機会をいかせばよかったと思いました。</p>

費用・奨学金に関すること

<p>■ 参加するために要した費用：</p>	
航空費	89,400 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	16,652 円
教科書代・書籍代	0 円

海外留学保険料(東京大学指定のもの)	4,090 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
韓国経由で合肥まで飛行機を取りましたが、チケットの購入などできる自信があれば、上海から新幹線を使うとかなり安くなるようです。	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	0 円
交通費	0 円
娯楽費	500 円
■その他、補足等:	
食事やペットボトルの水なども支給されたので基本的に何もお金はかかりませんでした。	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給しなかった。	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
目覚ましい進歩を遂げる中国に足を運んで自分の目や肌で中国を感じてみたいというのが一番の純粋な動機でしたが、文化や科学技術、インフラなどについて実際に行ってみて初めて気づいたことや感じたことがたくさんあり、とても有意義でした。1 週間共に行動する中で、参加者同士とても仲良くなり、修学旅行のような楽しい時間を過ごすことができました。彼らとの交流を通じて、東アジアや日本について考えなおすことができ、自国の文化についての理解も深まったように思います。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
様々な国の人と仲良くなり、文化の違いなどを肌で感じましたが、全員素敵な人ばかりだったので、今後も様々な人と接する際に心を開いて相手のことをよく知って関わっていきたいと思いました。
■進路・就職先(就職希望先):
専門職(法曹・医師・会計士等)、医師
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
行ってみると自分が期待していた以上の体験ができると思います。短期のため、学業やその他の用事との調整もしやすいと思うので、気になるものがあったら、積極的に応募することをおすすめします。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
黄山の観光に関するサイト